

平成 30 年 5 月 24 日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究(B) (海外学術調査)

研究期間：2014～2017

課題番号：26300023

研究課題名(和文)多言語資料の比較分析による敦煌・トゥルファン文献研究の再構築と統合

研究課題名(英文)Reconstruction and Integration of Researches into Dunhuang Turfan Texts through Multilingual Comparative Analyses

研究代表者

松井 太 (MATSUI, Dai)

大阪大学・文学研究科・教授

研究者番号：10333709

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,100,000円

研究成果の概要(和文)：敦煌(中国甘肅省)・トゥルファン(中国新疆ウイグル自治区)および周辺地域から発現した多言語文献の解読研究に基づき、当該地域の歴史展開の諸相(特に諸文化の接触・摩擦・融合)を解明した。特に、敦煌仏教石窟の現地に遺存する題記銘文資料の調査研究に注力し、従来知られていなかった多くの銘文資料の校訂テキストや関連する情報を集成・刊行することによって、敦煌地域をめぐる多言語状況とそれらの横断的交流についての知見を大きく改善することができた。

研究成果の概要(英文)：This project surveyed multilingual source materials from Dunhuang (Gansu, PRC) and Turfan (Xinjiang, PRC), to investigate the various historical aspects (multilingual and multicultural exchanges, frictions or intergration) in those regions from the seventh to the fourteenth centuries.

The prior task was the fieldwork at the Dunhuang Buddhist grottoes to decipher and revise philological editions of the wall inscriptions (Old Uigur = Old Turkic, Middle Mongolian, Sanskrit, Tocharian, Tibetan, Tangut = Xixia, Chinese). The result was published as the volume "Multilingual Source Materials of the Dunhuang Grottoes" (ed. D. Matsui & Sh. Arakawa, Tokyo Univ. of Foreign Studies, Fuchu (Tokyo), 2017, 521p). The volume provides the solid philological data of the inscriptions, to demonstrate that various ethnic groups visited and left for Buddhist pilgrimages and then exchanged their cultural elements across languages and religions.

研究分野：東洋史・中央アジア史

キーワード：敦煌 トゥルファン 出土文献 多言語 現地調査 仏教石窟

1. 研究開始当初の背景

20世紀初頭以来、甘肅省西端の敦煌や新疆ウイグル自治区のトゥルファンなど、中国西北地域の諸遺跡から発掘将来された、西暦3～14世紀に由来する出土文献資料は、世界各国における歴史・言語・美術・考古・文学・宗教など広範囲におよぶ「東洋学」研究にとって第一級の資料的価値をもつ。これらの大多数は漢文資料であり、いわゆる「中国学」の視点から、「中国本土」で編纂された典籍の情報を補完するものと位置づけられてきた。

その一方で、特に1980年代以降、漢文以外の諸言語にも通じた日本人研究者により、言語文献学に立脚した歴史学的研究成果が多数発表され、敦煌・トゥルファン地域が単なる「中国の西方辺境」ではなく、「ユーラシア諸文化が接触・融合する結節点」であることが実証的に解明されてきた。

特に2000年代に入り、世界各国(英・独・仏・露・中国など)所蔵の敦煌・トゥルファン出土文献資料については、浩瀚な写真複製資料集の刊行やオンラインデータベースによる画像公開により、その総体が把握されつつある。また敦煌・トゥルファン現地においても、中国側による発掘調査により資料の新発見・新公開が相次いでいる。さらに、敦煌・トゥルファンの諸遺跡を調査するための中国側の環境整備など、研究環境・資料公開状況が拡大に進展させられている。

2. 研究の目的

如上の状況において、本研究課題では、敦煌・トゥルファンおよびその周辺のクチャ・コータン・カラホト地域から出土した文献資料と、これらの地域の仏教石窟遺跡に残る銘文資料を解読研究し、その校訂テキストを歴史学的に利用して当該地域の歴史展開の諸相(特に諸文化の接触・摩擦・融合)を、総合的な視点から解明することを目的とした。

その主要な課題は下記の通りである。

(1) 新出・未公開文献の調査：2000年代以降に新たに学界に紹介・公開された資料については、単なる写真データや目録情報の公開、あるいは「簡報」レベルの報告・紹介にとどまる事例が多く、徹底的な文献学的・言語学的・歴史学的検討を加えられていないのが現状であった。これに対して、本研究課題では、出土文献資料を実見調査して文面を正確に解読・校訂するとともに、形態的特徴をはじめとする古文書学データを収集することにより、当該資料の性格や機能の把握、さらにはその歴史的背景の再構成を試みた。

(2) 敦煌石窟の題記銘文資料と解読：これらの銘文資料は、時代的・言語的にも様々であるが、全体としてみれば、仏教信仰拠点としての諸石窟を経済的に支援した政治権力者や、各地から訪問してきた仏教徒が巡礼の記念に書き残したものである。敦煌を中心とする仏教徒の活動や文化交流を反映するものであり、歴史資料として注目に値する。

3. 研究の方法

(1) 新出・未公開文献の調査に際しては、これまでデータ公開の遅れてきた中国・ロシア所蔵資料の調査に注力した。ほぼ毎年、複数のメンバーが同道して、ロシア・サンクトペテルブルク東方文献研究所や中国各地の研究機関を訪問し、原文書の調査を行なった。

(2) 敦煌石窟の諸言語題記銘文資料については、これまで研究の対象とされることが極端に少なく、漢文のものを除いては移録やテキストデータの蓄積もごくわずかである。そこで、毎年末にメンバー共同で敦煌石窟現地を訪問し、実地・現物調査と解読を行なった。その上で、資料として重要な銘文や壁画の写真複製を、石窟を管理する敦煌研究院に依頼し、より正確な解読に努めた。

(3) 本研究課題と連動して、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所の共同利用・共同研究課題「新出多言語資料からみた敦煌の社会」を発足させ、定期的に研究会を開催してメンバーの研究成果を相互に検証し、その精度を高めることに努めた。

(4) 当初、研究期間は3年間(平成26～28年度)を予定していたが、研究成果のとりまとめに至るまでに若干の不都合が生じたため、平成29年度にまで期間を延長した。

4. 研究成果

(1) 総計800窟を擁する敦煌石窟のうち約150窟を実見調査し、諸言語題記銘文資料の解読データを収集することができた。その成果を最終年度にとりまとめ、『敦煌石窟多言語資料集成』(松井太・荒川慎太郎(共編)、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、2017)として刊行した〔図書①〕。ここで提示したのは、ウイグル字・パクパ字・シリア字(ウイグル語・モンゴル語)銘文283条、ブラフミー文字銘文43条、チベット文字銘文92条、西夏文字銘文計430行、西夏時代漢文銘文33条、モンゴル時代漢文銘文184条の解読校訂テキスト、および榆林窟第12・16・25・32・34・36・40窟の供養人題記(傍題)の最新の積文と関連情報である。校訂テキストに付した語註では、敦煌地域をめぐる多言語状況およびその言語横断的文化交流についての知見を多く提出している。また、従来学界に知られていなかった題記銘文や供養人像の写真複製をも収載することで、広く敦煌学・中央アジア学・東洋学に貢献する内容となっている。

(2) 上述の敦煌石窟の題記銘文資料の調査に基づく個別論文として、9～14世紀の敦煌とチベット・ウイグルなど諸勢力との関係や、ウイグル人仏教徒さらにはウイグル人キリスト教徒の敦煌における巡礼の様相などが解明された〔論文①⑩⑭⑯⑳㉑㉒〕。

(3) また、主に帰義軍時代(9世紀後半～11世紀前半)の供養人像の図像的分析により、帰義軍節度使の造営した石窟の特定、および帰義軍史の変遷・展開の跡づけに資すること

を証明し得た〔論文⑳㉑〕。

(4) その他、参加メンバー各自が、世界各国に所蔵される敦煌・トゥルファン・中央アジア出土文献の調査に基づく言語文献学的・歴史学的研究を個別論文として発表した。

そのうち、本研究課題に眼目の一つである多言語資料の横断的検討や多文化接触に関わる成果としては、以下のようなものがある：

- ①タリム盆地(マザール=ターグ遺跡)出土の最古層(8世紀)の古代トルコ語の漢語対訳語彙〔論文㉒〕
- ②東シリア=キリスト教(景教)の東方伝道〔論文㉓〕
- ③帰義軍政権と西ウイグル勢力に介在したチベット語話者のソグド人集団〔論文㉔〕
- ④漢語から古代ウイグル語への諸都市名の継受関係〔論文④㉕㉖〕
- ⑤唐代の住民組織のウイグルへの伝播〔論文⑦㉗〕
- ⑥西ウイグルのマニ教から仏教への改宗時期(10/11世紀)における両教徒の接触〔論文③㉘〕
- ⑦漢語仏典のウイグル語への訳経活動〔論文⑨㉙㉚〕
- ⑧中国の軍事技術の西夏への伝播〔論文㉛〕
- ⑨ウイグル語からモンゴル語への契約文書文化の継受関係〔論文⑫㉜〕

なお、これらの論文には、刊行に先立って国際学会で報告されているもの、また英文・中文など外国語によるものが少なくないことも特筆できる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 50 件)

- ① 松井太, 榆林窟第 16 窟叙利亞字回鶻文景教徒題記, 敦煌研究, 査読有, 2018-2, 2018, 34-39.
- ② MATSUI, Dai, Mazar Tagh Harabesi'nden getirilen Eski Türkçe-Çince bir lügatçe, *Prof. Dr. Talât Tekin hatıra kitabı*, 査読無, Vol. 2, 2017, 679-696.
- ③ MATSUI, Dai, An Old Uigur Account Book for Manichaean and Buddhist Monasteries from Temple α in Qoço, *Zur lichten Heimat*, 査読無, 2017, 409-420.
- ④ 松井太, 吐魯番諸城古回鶻語稱謂, 吐魯番學研究, 査読有, 2017-1, 2017, 95-116. DOI: 10.14087/j.cnki.65-1268/k.2017.01.010
- ⑤ 松井太, 蒙古時代の畏兀兒農民與佛教教團, 西域研究, 査読有, 2017-3, 2017, 97-115. DOI: 10.16363/j.cnki.xyyj.2017.03.010
- ⑥ 赤木崇敏, 曹氏帰義軍節度使系譜攷, 敦煌・吐魯番の文書世界とその時代, 査読無, 2017, 237-261.
- ⑦ 松井太, トゥルファン=ウイグル人社会の連保組織, 敦煌・吐魯番文書の世界とその時代, 査読無, 2017, 287-310.
- ⑧ 松井太, 高昌故城寺院址 α のマニ教徒と

仏教徒, 大谷探検隊収集西域胡語文献論叢, 査読無, 2017, 71-86.

- ⑨ 橘堂晃一, 大谷探検隊将来ウイグル文『大乘入道次第』残葉, 大谷探検隊収集西域胡語文献論叢, 査読無, 2017, 87-104.
- ⑩ 橘堂晃一, ベゼクリク石窟供養比丘図再考, アジア仏教美術論集・第 3 卷: 中央アジア, 査読無, 2017, 523-550.
- ⑪ ARAKAWA, Shintaro, On Two Tangut Fragments "Praising Buddha" preserved in the British Library, 北方文化研究, 査読有, 7, 2016, 11-18.
- ⑫ 松井太, 黒城出土蒙古語契約文書與吐魯番出土回鶻語契約文書, 北方文化研究, 査読有, 7, 2016, 203-214.
- ⑬ 岩尾一史, ドルボ考, 内陸アジア言語の研究, 査読有, 31, 2016, 1-19. <http://hdl.handle.net/11094/58631>
- ⑭ 白玉冬・松井太, フフホト白塔のウイグル語題記銘文, 内陸アジア言語の研究, 査読有, 31, 2016, 29-77. <http://hdl.handle.net/11094/58627>
- ⑮ MATSUI, Dai, Uigur-Turkic Influence as Seen in the Qara-Qota Mongolian Documents, *Actual Problems of Turkic Studies*, 査読有, 2016, 559-564.
- ⑯ 松井太, 蒙元時代回鶻佛教徒和景教徒的網絡, 馬可波羅・揚州・絲綢之路, 査読無, 2016, 283-293.
- ⑰ 松井太, 大英圖書館所藏對譯語彙集斷片 Or. 12380/3948 再考, 東方学, 査読有, 132, 2016, 87-74.
- ⑱ LI Gang and MATSUI Dai, An Old Uighur Receipt Document Newly Discovered in the Turfan Museum, *Written Monuments of the Orient*, 査読有, 2016-2, 2016, 68-75.
- ⑲ 岩本篤志, 敦煌景教文献と洛陽景教経幢, 唐代史研究, 査読有, 19, 2016, 77-97.
- ⑳ 岩本篤志, 何爲敦煌文獻, 敦煌學國際聯絡委員會通訊, 査読有, 2016, 2016, 145-146.
- 21 橘堂晃一, ウイグル文華叢經研究の新展開, 東洋史苑, 査読有, 86/87, 2016, 1-25.
- 22 IWAO, Kazushi, Preliminary Study of the Legal Court Proceedings in the Old Tibetan Empire, *Secular Law and Order in the Tibetan Highland*, 2016, 315-322.
- 23 赤木崇敏, 曹氏帰義軍節度使時代の敦煌石窟と供養人像, 敦煌写本研究年報, 査読有, 10, 2016, 285-308.
- 24 坂尻彰宏, 三つの索勳像, 敦煌写本研究年報, 査読有, 10, 2016, 309-325.
- 25 岩尾一史, 9世紀の帰義軍政権と伊州, 敦煌写本研究年報, 査読有, 10, 2016, 341-356.
- 26 橘堂晃一, ウイグル文慈恩宗唯識文献「大唐三蔵行跡讚」について, 敦煌写本研究年報, 査読有, 10, 2016, 371-386.
- 27 岩本篤志, 敦煌本脉書小考, 敦煌写本研究年報, 査読有, 10, 2016, 387-398.
- 28 MATSUI, Dai, Old Uigur Toponyms of the

- Turfan Oases, *Kutadgu Nom Bitig: Festschrift für Jens Peter Laut zum 60. Geburtstag*, 査読無, 2015, 275–304.
- 29 MATSUI, Dai, Uygur ve Mogol vesikalarında görülen Mogol İmparatorluğu ağırlık ve ölçü birleşimi, *Türk Kültürü Araştırmaları Dergisi*, 査読有, 2015-1, 2015, 113–126.
- 30 松井太, 敦煌出土西夏語佛典夾雜之回鶻文雜記, 回鶻學譯文集新編, 査読無, 2015, 136–141.
- 31 松井太, 回鶻文・蒙古文文獻中所見蒙古帝國時期對度量衡的統一, 回鶻學譯文集新編, 査読無, 2015, 345–359.
- 32 MATSUI, Dai, Ürümchi we qedimki ‘Yürünčin’ sözi toghrisida, 語言與翻譯 (*Til we terjme*), 査読有, 2015-4, 2015, 11–15.
- 33 坂尻彰宏, 敦煌般次考, 内陸アジア言語の研究, 査読有, 30, 2015, 173–197.
- 34 赤木崇敏, 敦煌三界寺僧道真とコータン王家, 内陸アジア言語の研究, 査読有, 30, 2015, 199–222.
- 35 ARAKAWA, Shintaro, On the design of a “Trebuchet” in the Tangut Manuscript of IOM, RAS, *Written Monuments of the Orient*, 査読有, 2015-2, 2015, 21–30.
http://www.orientalstudies.ru/eng/images/pdf/p_wmo_2_2015_03_shintaro.pdf
- 36 荒川慎太郎, 西夏語の3種の遠称指示代名詞の使い分けについて, 言語研究, 査読有, 148, 103–121. DOI: https://doi.org/10.11435/gengo.148.0_103
- 37 赤木崇敏, 唐宋代敦煌社会の水利と渠人, 唐代史研究, 査読有, 18, 2015, 3–28.
- 38 山本明志, 河南省滎陽の金元時代の石刻史料, 歴史評論, 査読有, 783, 2015, 16–25.
- 39 MATSUI, Dai, Eski Uygur hukuk belgelerinde geçen *borun* ve *borunluq* üzerine. *From Old Turkic to Modern Uyghur: Festschrift in Honor of Mirsultan Osman on the Occasion of His 85th Birthday*. 査読無, 2015, 89–106.
- 40 松井太, 古ウイグル語行政命令文書に「みえない」ヤルリグ, 人文社会論叢 (人文科学篇), 査読無, 33, 2015, 55–81.
<http://hdl.handle.net/10129/5496>
- 41 岩本篤志, 国立国会図書館蔵敦煌文献小考, 立正大学人文科学年報, 査読無, 52, 2015, 1–17.
- 42 岩尾一史, 古代チベットの土地台帳と農牧の区別, 日仏東洋学会通信, 査読無, 37/38, 2015, 34–41.
- 43 松井太, 敦煌諸石窟のウイグル語題記銘文に関する筈記 (二), 人文社会論叢 (人文科学篇), 査読無, 2014, 32, 27–44.
<http://hdl.handle.net/10129/5403>
- 44 MATSUI, Dai, Dating of the Old Uigur Administrative Orders from Turfan, *VIII. International Turcology Congress: Book of Papers*, 査読有, Vol. 4, 2014, 611–633.
- 45 ARAKAWA, Shintaro, Re-analysis of the Tangut verb phrase based on a study of the word order, 西夏学, 査読無, 9, 2014, 290–297.
- 46 ARAKAWA, Shintaro, On the Tangut verb phrase in The Sea of Meaning, Established by the Saints, *Central Asiatic Journal*, 査読有, 57, 2014, 15–25.
DOI: 10.13173/centasiaj.57.2014.0015
- 47 SATO, Takayasu, Defense Challenges for the Capital of the Xi Xia (Tangut) Kingdom, *Central Asiatic Journal*, 査読有, 57, 2014, 201–208.
DOI: 10.13173/centasiaj.57.2014.0201
- 48 KITSUDO, Koichi, Notes on the Commentary to the *Yuan jue jing* in Old Uigur, *Acta Orientalia Academiae Scientiarum Hungaricae*, 査読有, 67, 2014, 313–318.
- 49 高奕睿・橘堂晃一, 日本の中亜探検, 西域研究, 査読有, 2014-1, 2014, 100–116.
DOI: 10.3969/j.issn.1002-4743.2014.01.013
- 50 岩尾一史, 敦煌莫高窟とT型題字枠再論, 敦煌寫本研究年報, 査読有, 9, 2014, 163–172. http://www.zinbun.kyoto-u.ac.jp/~takata/NIANBAO_9.pdf
- [学会発表] (計 30 件)
- ① 松井太, 榆林窟第 16 窟叙利亞字回鶻文題記, 2017 敦煌論壇: 交融与創新: 紀念段文傑先生生誕 100 年國際學術研討会, 2017 年 8 月 24 日, 中国敦煌市・敦煌研究院
- ② IWAO, Kazushi, Diplomatic policy of the Old Tibetan Empire in the beginning of the 9th century, *Collegium Turfanicum* 86, 2016 年 12 月 13 日, Berlin: Berlin-Brandenburgische Akademie der Wissenschaften, Turfanforschung
- ③ 赤木崇敏, 敦煌石窟の供養人像調査, 第 59 回中央アジア学フォーラム, 2016 年 12 月 10 日, 豊中市: 大阪大学
- ④ 松井太, 黒城出土蒙古語契約文書與吐魯番出土回鶻語契約文書, 首届北方民族古文字研究國際學術研討会, 2016 年 12 月 3 日, 呼和浩特市: 内蒙古大学
- ⑤ ARAKAWA, Shintaro, On Two Tangut Fragments “praising Buddha” preserved in the British Library, 首届北方民族古文字研究國際學術研討会, 2016 年 12 月 3 日, 呼和浩特市: 内蒙古大学
- ⑥ IWAO Kazushi, Some Tibetan Inscriptions in Dunhuang Caves, 首届北方民族古文字研究國際學術研討会, 2016 年 12 月 03 日, 呼和浩特市: 内蒙古大学
- ⑦ 松井太, 英國圖書館藏蕃漢語詞對譯 Or. 12380/3948 文書殘片再考, 2016 敦煌論壇: 交融与創新: 紀年莫高窟創建 1650 年國際學術研討会, 2016 年 8 月 20 日, 敦煌市: 敦煌研究院
- ⑧ IWAO, Kazushi, *dbung mtha'*: Center and Periphery of the Old Tibetan Empire, The 4Seminar of International Association of Tibetan Studies, 2016 年 6 月 20 日, Bergen:

- Bergen University
- ⑨ 松井太, 大英図書館所蔵対訳語彙集断片 Or.12380/3948 再考, 2016年4月2日, 第56回中央アジア学フォーラム, 豊中市: 大阪大学
- ⑩ 松井太, 敦煌・トゥルファン・呼和浩特のウイグル語題記銘文調査, 2015年12月12日, 第55回中央アジア学フォーラム, 豊中市: 大阪大学
- ⑪ 橘堂晃一, ウイグル文華巖經研究の新展開: 奥書と訳出の背景を中心に, 第55回中央アジア学フォーラム, 2015年12月12日, 豊中市: 大阪大学
- ⑫ MATSUI, Dai, Network under the Mongol Empire as Seen in the Turco-Mongolian Documents Discovered in Central Asia, Global History Workshop: “Globalization from East Asian Perspectives, 2016年3月15日, 大阪市: 大阪大学中之島センター
- ⑬ 荒川慎太郎, 日本西夏学研究現状, 西夏語言と文化学術研討会, 2015年12月10日, 銀川市: 寧夏大学
- ⑭ 松井太, 黒城出土蒙古文文書和回鶻文文書, 内蒙古大學蒙古學學院學術講座, 2015年12月7日, 呼和浩特市: 内蒙古大學
- ⑮ 松井太, 回鶻佛教徒在敦煌: 敦煌諸石窟回鶻語銘文調査簡報, 敦煌研究院學術講座, 2015年12月3日, 敦煌市: 敦煌研究院
- ⑯ 橘堂晃一, 敦煌諸石窟婆羅迷文字銘文調査簡報, 敦煌研究院學術講座, 2015年12月3日, 敦煌市: 敦煌研究院
- ⑰ 荒川慎太郎, 西夏語の文法研究: 各種資料からみた文法語を例に, 日本言語学会第151回大会, 2015年11月29日, 名古屋市: 名古屋大学
- ⑱ 岩本篤志, トハリスタンの仏教遺跡と玄奘: 立正隊による調査と発掘をふまえて, 唐代史研究会 2015年秋期会合, 2015年11月15日, 千代田区: 中央大学駿河台記念館
- ⑲ IWAO, Kazushi, On the Study of Old Tibetan Contracts, 絲綢之路出土民族契約研究国際学術論壇, 2015年10月29日, 吐魯番市: 新疆吐魯番学研究院
- ⑳ MATSUI, Dai, Uigur-Turkic Influence on the Qara-Qota Mongolian Documents, International Scientific Conference “Languages and Literatures of the Turkic Peoples”, 2015年10月26日, St. Petersburg: St. Petersburg National University
- 21 MATSUI, Dai, Network of the Uigur Buddhists and Christians in the Mongol-Yuan Period, International Academic Conference “Marco Polo and the Silk Road”, 2015年9月18日, 揚州市: 揚州會議中心
- 22 岩本篤志, 敦煌景教文献と洛陽景教經幢, 唐代史研究会 2015年夏期シンポジウム, 2015年8月18日, 新宿区: 早稲田大学
- 23 ARAKAWA Shintaro, On some uses of the Tangut affix lki, 第四届西夏学學術論壇暨河西歴史文化研討会, 2015年8月16日, 張掖市: 河西学院図書館
- 24 MATSUI, Dai, Uigur Buddhist Pilgrims as Seen in the Wall Inscriptions in the Dunhuang Caves, 2015 Dunhuang Forum: International Symposium on the Role of Dunhuang in China’s Interaction with the Outside World, 2015年8月14日, 敦煌市: 敦煌研究院
- 25 岩本篤志, 天理圖書館藏《石室遺珠》中敦煌醫方考, 博物學與寫本文化: 知識-信仰傳統的生成與構造學術研討會, 2015年6月20日, 上海市: 復旦大学
- 26 岩本篤志, 敦煌文献與傳存文献之間: 以唐代醫藥書《新修本草》和《千金方》爲中心, 國際学術研討會: 重繪中古中國的時代格, 2014年11月9日, 上海市: 復旦大学
- 27 IWAMOTO Atsushi, Studies on the Seals of Private Owners Impressed on Dunhuang Manuscripts, International Conference: Prospects for the Study of Dunhuang Manuscripts, 2014年9月7日, Princeton: Princeton University.
- 28 IWAO Kazushi, Linguistic Remarks in the Tangut Inscriptions from Dunhuang, International Conference: Prospects for the Study of Dunhuang Manuscripts, 2014年9月7日, Princeton: Princeton University.
- 29 IWAO Kazushi, A Tibetan Official Report and Its Format in the Guiyijun Period, 第11屆唐代文化國際學術研討會, 2014年6月22日, 台北市: 中国文化大学
- 30 IWAO Kazushi, Judicial System and Documents of the Old Tibetan Empire, Secular Law and Order in the Tibetan Highland, 2014年6月9日, Rikon: The Tibet Institute
- [図書] (計3件)
- ① 松井太・荒川慎太郎 (編) 『敦煌石窟多言語資料集成』東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所, 2017, 521p.
- ② 岩本篤志『唐代の医薬書と敦煌文献』角川学芸出版, 2015, 300p.
- ③ 荒川慎太郎『西夏文金剛經の研究』松香堂書店, 2014, 561p.
- [ホームページ等]
- Academia.edu (研究者用 SNS) 内における参加メンバーの個人アカウント
<https://hirosaki-u.academia.edu/DaiMatsui>
<https://ryukoku.academia.edu/KazushiIwao>
<https://rissho.academia.edu/atsushiiwamoto>
<https://ryukoku.academia.edu/KOICHIKITSUDO>
6. 研究組織
- (1) 研究代表者
 松井 太 (MATSUI, Dai)
 大阪大学・文学研究科・教授
 研究者番号: 10333709

(2) 研究分担者

赤木崇敏 (AKAGI, Takatoshi)
東京女子大学・現代社会学部・准教授
研究者番号：00566656

荒川慎太郎 (ARAKAWA, Shintaro)
東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・准教授
研究者番号：10361734

岩尾一史 (IWAO, Kazushi)
龍谷大学・文学部・准教授
研究者番号：90566655

岩本篤志 (IWAMOTO, Atsushi)
立正大学・文学部・准教授
研究者番号：80324002

橘堂晃一 (KITSUDO, Koichi)
龍谷大学・仏教文化研究所・研究員
研究者番号：00598295

坂尻彰宏 (SAKAJIRI, Akihiro)
大阪大学・全学教育推進機構・准教授
研究者番号：30512933

佐藤貴保 (SATO, Takayasu)
盛岡大学・文学部・准教授
研究者番号：40403026

山本明志 (YAMAMOTO, Meishi)
大阪国際大学・グローバルビジネス学部・准教授
研究者番号：70710937

(3) 連携研究者

なし

(4) 研究協力者

荻原裕敏 (OGIHARA, Hirotooshi)

笠井幸代 (KASAI, Yukiyo)

慶昭蓉 (CHING, Chao-jung)

白玉冬 (BAI, Yudong)